

近年、人気が高まっているサイクリング。国内の愛好者は九百万人を超えるときれ、観光と組み合わせた「サイクルツーリズム」を楽しむ訪日客も少なくない。北陸三県では広域周遊を促す取り組みや動画の配信、旅行商品の開発などさまざまなアイデア、地域性を生かした誘客に知恵を絞っている。(蓮野由耶)

外国人向けや動画配信

■石川

県内には本年度新たに能登島や七尾市街地を周遊する「七尾湾ルート」を加えた、計六つのルートがある。スマートフォンを使ったスタンブラリーを実施し、入手したスタンブ数に応じて地元特産品を贈る。四月に新装した宿泊施設

「内灘町サイクリングタミナル」では海外の愛好者向けに洋室を新設。夏前には、各コースの風景とともに自転車走っているような感覚が味わえる映像を動画投稿サイト「YouTube」などで公開する。

担当者は「石川を走ってみたいと思ってもらえるようPRしたい」と意気込む。

■富山

富山湾が二〇一四年に「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟した翌年から、県が氷見市と朝日町を結び、約八十八キロの富山湾岸サイクリングコースで大会を

地域未来派

自転車旅 誘客走る

自転車で波打ち際を走行できる石川県の千里浜なぎさドライブウェイ。豊かな景色を楽しみながら走れる(石川県提供)



■福井

催す。参加者は年々増え、今年度は過去最高の千四百一十五人が参加した。昨年度は海側に自転車専用道路を新設し、タイヤのパンク修理や携帯電話の充電ができるカフェも整備した。本年度は国内の著名サイクリストを招き、自身のブログで紹介してもらうほか、台湾の旅行会社を招いて周辺の観光施設などと組み合わせた旅行商品の開発も予定する。

県の担当者は「世界中からサイクリストを呼び込みたい」と話す。

「食」に焦点を当てた。県内のコースのうち、一番人気は日本海や三方五湖の風景を楽しめる若狭路センチュリーライドコースだ。毎年五月に大会が開かれ、コース沿いの熊川宿の名物のくすまんじゅうや、サザエのつぼ焼きなどが振る舞われる。六月には新たに三方五湖で取れる天然ワナギやスイーツが味わえる「わかさじおつかれツアー」が計画されている。

サイクリストの誘致に向け、日本サイクルツーリズム推進協会の西田恵理子代表理事(左)は、その土地ならではの魅力を知り尽くした現地ツアーガイドの養成などを提案する。

西田さんは、サイクリングで各地を訪れる人には二つのパターンがあると考え。一つは一日の走行距離が長く、複数日で各地を回る「移動

サイクルツーリズム推進協 西田代表理事

型」と、もう一つは訪れた土地をゆっくり巡って人と触れ合い、食を楽しむ「着地型」だ。

多くの自治体が目指すのが後者であり、特に外国人観光客の多くは口コミで走る土地を選ぶため、「ちょっとした触れ合い、体験が会員制交流サイト(SNS)を通じて一

現地ガイド養成

「着地型」体験を

気に広がる」と強調する。ただ走るだけでなく、例えばルート沿いの農家で畑仕事を手伝ったり、古民家に暮らす人と話したり。そんな触れ合いをガイドが手助けできないかと主張する。「景色がきれいだというだけでは一度しか足を運んでくれない。人と人とのつながりを生み出すことの重要さを自治体に気づいてもらいたい」